

Dear地球民

第29号
2006年3月発行

編集発行
〒259-0303

ゆがわら国際交流協会
神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1
湯河原町商工会内 TEL0465-63-0111



充実のスペシャルトルコ13日間
会長高橋賢次



再会！ブラジルの家族達
鳥光妙子



満喫のベトナム食べ歩き
秋山里花



われら仲間の海外旅行

充実のスペシャルトルコ☆13日間



トロイ遺跡



トロイ遺跡音楽堂



アクロポリス遺跡



ペルゲ遺跡



アスペンドス遺跡



カッパドキアキノコ岩



エフェス遺跡古代水洗トイレ



エフェス遺跡セルシウス図書館



カッパドキアウフララ溪谷



パムッカレ石灰棚

充実のスペシャルトルコ。地中海のイスタンブールは暖かく、南のカッパドキアは標高2000mで、寒くて雪もあった。西の方はテロリストが出るため、入ることはできなかった。

旅行は、イスタンブール、サフランボル、トロイ、ベルガマ、エフェス、パムッカレ、アンタルヤ、カッパドキアそしてイスタンブールに戻って日本に帰って来た。

トルコは遺跡が多い。遺跡が嫌いな人は面白くない。イスタンブールのボスポラス海峡はアジアとヨーロッパの接点となっている。次の日にチャナッカレに向かう途中、造りかけのマンションがたくさんあった。ガイドの話では、夏は観光客で一杯になるとのこと。ちょっと信じがたい。イスタンブール

ではダーダネルス海峡が見えるホテルに泊まった。

3日目にトロイの遺跡を見に行った。約2時間、メガトロコ住居跡や音楽堂を見学した。トロイの木馬を見てがっかりした。おもちゃみたいな建造物。次にベルガマに着いてアクアポリスの劇場、ディオニス神殿、アテネ神殿などの遺跡を見て、その荒れ果てた状態に落胆した。

4日目に訪れたエフェスの都市遺跡には、古代の女性用の水洗トイレがあり、大小の音楽ホールが三ヶ所あった。その中の大きなホールでは、観光客が歌を歌ってよく響くかテストしていた。よくできているセルシウスの図書館、レリーフが美しいハドリアヌス神殿。アルテミス神殿は現在、柱が1本残っているだけである。それでも観光で成り立っている

ようだ。この約3時間の観光の中では、エフェスが壮大で一番素晴らしい遺跡であったと思う。

6日目に世界遺産にも指定されているパムッカレを訪れた。ここは温泉水が作り上げた壮大な石灰棚である。この日は快晴で石灰棚が真っ白に浮き上がりすばらしい景観に感動した。世界遺産の中を歩けるのはここだけだ。パムッカレの近くにはヒエラポリスの遺跡が広がっており、ここはすべて墓である。

次にアンタルヤで宿泊。アスペンドス遺跡にも劇場があり、近年修復され現在も使われている。

7日目はアンカラで早めの昼食を取り、コンヤに向かった。ここは真っ白な雪景色ですごくきれいだった。

9日目にカッパドキア地方を訪れた。ギョレメの谷はタケノコ形の奇岩が広がっていた。ウルギュップは面白い岩に囲まれた所であった。カイマクルは地下8階の巨大な地下都市であり、都市機能に必要なものがほとんどすべてそろっていた。現在では住人はおらず昼間のみ訪れることができる。

今回のトルコ旅行で、私の選んだベスト3

- 1位：カッパドキア
- 2位：石灰棚
- 3位：エフェス

これまで私が旅行した国数は35ヶ国であり、トルコ旅行は3本の指に入る。(高橋賢次)

再会！ブラジルの家族達

「鳥光さん ブラジル旅行のスケジュールは決まりましたか？」

2005年1月1日、寝正月の朝、ブラジルからWさんの電話で目が覚めた。Wさんは家でお預かりした3番目のLさんのお父さんで、家族ぐるみのお付き合いをしていた。

2月の旅行に具体的な連絡をしていなかった私達を各家族の方々も心配してくださっていたのだ。

長女の大学卒業記念に主人と3人でブラジルに行くことは懐かしい8人の子供達との長年の約束であり、それがかなう嬉しい気持ちでいっぱいだった。

2月16日、24時間の長旅に出発した。17日早朝、到着したサンパウロ空港には4家族6人の方々が出迎えてくれた。順番通りWさんと車で市街へ、大都市のビル群、ビジネスの中枢、どの都市でも見られる風景が広がる。翌日はLさん家族と空路Rioへ 祭り(カーニバル)のあとの静けさはあったが、賑わうコパカバーナ、イパネマ、夕陽に浮かぶキリスト像、コルコバード、イメージ通りの景色がそこにあった。

翌19日、家にきた子供達のその後の成長を見、各々を友人として紹介したい—そんな希望をNさん家族に頼み、7人に連絡出来、パーティーを開いて下さった。昼から夜にかけてNさん宅に仕事を終えて来たり友人を誘ったり、約20人余りの子供達や親御さん方が集まってくれた。昔の写真を見たり、旧交を温め楽しい時間を過ごした。

20日はNさんが手配してくださったガイド付きイグアスの滝一泊ツアーへ。上り下りの長い道を経て辿り着いた滝の雄大さに暑さも忘れる。

翌日イグアスの帰りサンパウロ空港で出迎えてくれたのはTさんKさん家族であった。マイクロバスで移動しTさんの郊外宅へ、夜の食事は満天の星の下、ゆっくりと時が流れる。翌22日は、この2家族と共にKさん宅を目指す。Kさんのお母さん「日本人の旅行はとても忙しく日数が少ないわ。ブラジルはもっとゆっくり旅しなきゃ〜でもTさん家族と仲良くなれたから、2日間私達はお父さんお母さん達とこんな風と一緒に過ごせられるわ。」と言う(ナルホド)。翌日Kさん宅へ向かう前にサンパウロの街中のTさんの自宅へ寄るこ

とになった。「時間がないから早道をするわね。」とTさんのお母さん。マイクロバスは道路の隆起に合わせて揺れる。混雑する道、道沿いの地域はグレーに煙る。壊れかけた看板、建物といえば今迄見たサンパウロの市街とは比べ物にならないくらいふた昔前の光景のように見えた。「日本の昭和30年代位かな？」と主人が言う。だが、映画「Always 三丁目の夕日」のような気はない。このような地域は高地にあると聞いていたが・・・、しばらく目に焼きついていて、Tさん宅に着く間に新しいページをめくるように環境は変わり、生き活きとした街並みになる。

Kさん宅はSao Bernardo do Campoにある。夕食は手打ちのうどん、翌日のランチはKさんのご主人が肉を焼いてくださった。このシュハスコ(日本ではシュラスコ)、ブラジルで何度頂いただろう。安く美味しい豊富な食材は見ているだけで楽しい。

それまで、5日間は日系人家庭でお世話になったが、ブラジル最後の一泊は陽気なブラジリアンA君のアパートであった。今では起業家で多忙な彼とは夜、近くに住む、前の年に来たAさん、Sさん又日本人研修生Hさんそして我々と約10人程でサルサクラブで盛り上がった。翌24日、A君の実家で朝食、私とは一つ違いのお母さんに会う。「あなた、変わらないわね。娘さんは大きくなったわね。」と。14年前A君が持ち帰った私達の写真から細くても長い「糸」が繋がっていたと思うと、嬉しかった。

夕方、Nさんに日本移民資料館へ連れて行って頂いた。移民の生活、苦勞、それは日系ブラジル人の心のよりどころであり、ブラジルに来たら外せないポイントだ。

Nさんはその後、日本レストランで(集まれる方々で)食事会を開いて下さり、深夜零時の出発に合わせ、空港に向かった。大勢の方々に見送られ帰路についた。途中、出張で名古屋に行くLさんのご主人がロサンゼルスで私達の飛行機に乗り換えてきたサプライズもあったが・・・。

26日夕方、成田に着くと「雪」が降っていた。そう、まだ「冬」だった。

無事に帰れたこと、細やかなサポートを頂いたことをホストファミリーに電話やEメールで感謝し、又いつか会いに行く、再会の約束を伝えた。(鳥光妙子)

満喫のベトナム食べ歩き

台湾、ハワイ、アメリカに続く4度目の母娘二人旅。今年は、1月14日から6泊8日の日程で、ベトナムを旅行してきました。

ホーチミン市内を拠点に、クチトンネル(ベトナム戦争時代の地下トンネル)、メコン川クルーズ等の観光、市場で買い物、マッサージと毎日盛りだくさんの旅でした。

期待していたベトナム料理は、フランス・中国等の食文化が融合しているため食べやすく、非常に美味し

かったです。また、ホテルの朝食ビュッフェで出されるフォー(ベトナムを代表する麺)は、毎日具やスープの味が違い、その種類の多さに驚きました。日本でも最近流行っているフォーですが、実はあの生春巻きの皮(ライスペーパー)を、麺状にカットしたものということにも驚きました。

アオザイ姿の美しいベトナム人は、目が合うとニコッとスマイルで返してくれます。そのおかげで気軽に話しができ、可愛らしいベトナム人の友人ができました。今も、E-MAILで連絡を取り合っています。今度は、彼女達に会いにベトナムに行きたいと思えます。(秋山里花)

第20回やっさ国際交流 に参加した 外国人留学生とホストファミリー

(05年7月30日～8月6日)



申錫旻 (韓)
青木ファミリー



李家耀 (香港)
長谷川ファミリー



許英周 (韓) 金徳宣 (韓)
中村ファミリー



トゥカター・トク・ラーンカセン (タイ)
鈴木ファミリー



レナラ・トゥバイ (サモア)
善本ファミリー



熊小華 (中)
工藤ファミリー



高慧信 (韓)
高野ファミリー



呉巧怡 (台)
平田ファミリー



ルシアーナ・ブラガグリア (ブ)
柳沢ファミリー



カルロス・エドゥアルド・マツダ (ブ)
露木ファミリー



樋野上・恵理香・クリスチアネ (ブ)
杵沢ファミリー



フラヴィア・サエス・コミナーレ (ブ)
鳥光ファミリー



ダニエル・ラッハマン (独)
河野ファミリー



マリア・レジーナ・オリベイラ (ブ)
早藤ファミリー



平成17年度語学講座

平成17年10月10日～11月28日（全8回）

場所：湯河原町役場分庁舎 3F・6F

ABCからの英会話

Paul Thompson講師 受講生：7名

初級英会話

青木清講師 受講生：14名



楽しかった英会話教室

この度、ゆがわら国際交流協会主催のこの教室の運営を役員であられる早藤氏より依頼されました。私には重い役目で初めは躊躇しましたが、この夏、海外青年のホームステイの受け入れで役員の方々の献身的なお働きを思い、お断わり仕切れずお受けした次第です。

英語の初歩・ABCの教室をと申されましたので、本当にABCから始めました。

♪…XYZ, Oh, do you see, now I can say my ABC.
(ねえ解る、僕、ABCが言えるようになったんだよ)と歌詞の通りに、まるで中学1年生の春に味わったあの感動を皆さんと歌いました。勿論、皆さんはすでにアルファベットをご存じだったので！

以来、アメリカにホームステイした麗菜を主人公にしたテキストを中心に、毎回、熱心な言語活動が展開され、あっという間に最終回になりました。途中のブレイクタイムに交わされる会話も英語に関する疑問質問でした。みかんのことはタンジェリンと言ひ、ホチキスはステイプラー、流行のハイブリッドは…と長年の生活からの興味関心から生まれたものばかりでした。20代の方々と60、70代の方々私も含め、10代に若返り子供の純粋さでエネルギーに英語を愉しむことができました。このように楽しい機会を与えてくださった交流協会の皆様とご一緒に学習し合った皆様に心から感謝いたします。(青木清)



英会話講座を受講して

私は、初めての英会話講座でドキドキしていましたが、第1回目にABCの歌を教えてください、みんなと一緒に歌っているうちに緊張がほぐれて行きました。

思っていたよりレベルが高かったので、最初は何も行けるか心配でしたが、前回習ったことを復習してくれて、わからないことは先生が優しく親切に教えて下さいました。

周りの方々も良い人に恵まれ、協力しながら楽し

く勉強することができました。

いろいろな年代の方々と、英会話を通して仲良くなれたことも嬉しく思います。

そして、スタッフの皆様もとても親切で優しくかったです。短い間でしたが、とても楽しかったです。ありがとうございました。(松田有里)



初級英会話講座を受講して

「中学生程度」という言葉に安易に引かれて受講を決意。ところが初日、先生の話チンプンカンプン!“どうしよう”と不安の中で回を重ねるうちに、不思議なことに、なんだか少しずつ理解できるようになったのです。多分私にとって、先生の話プラス板書があったことがとても良かったのだと思います。また必ずプリントが用意され、それをもとにゲーム感覚で会話をやりとりしたり、「食は最も重要」とのことから、レストラン風の模擬体験をしたり楽しみながら学ぶことができました。

受講生同志にも和やかさが出て、笑い声に包まれることもありました。See you next weekの言葉が聞けなくなるのがとっても残念です。ポール先生ありがとうございました。(小笠原和代)



英会話講座を受講して

グローバル化の進展、インターネット情報がボーダレスで飛び交う昨今、私は英語の必要性を痛感しておりました。そんな折、今回の英語講座を大変ありがたく受講させていただきました。

ポール先生が、有用な教材で実に熱心に時にはユーモアを交えて楽しく教えてくださいました。お蔭で、これから町内で外国の方にお会いしても、今までより少しは自身を持って温かく対応できそうです。

今後さらに英語講座を継続していただけますことをお願いして筆を置きます。

末筆ながら受講を大変親切にお世話して下さった国際交流協会、並びに関係者の皆様に衷心より厚く御礼申し上げます。(戸川公伍)



お礼状

今回の英会話講座ではお世になりました。ありがとうございました。良い先生にめぐり会い、楽しく学ぶことができ、いっそう学習意欲が湧いてきたように思います。

また昨日、写真が届きました。誠にありがたく重ねて御礼を申し上げます。寒さが厳しい折、皆様の御健勝をお祈りいたします。先ずは御礼まで。(永井清)

世界のお茶を楽しもう

紅茶のブランド“L'EPICER (レピシエ)”からティースクール講師をお招きして、世界のお茶の素敵なお話で楽しいひと時を過ごしました。

講師：田之畑 宏樹

日時：平成17年7月8日（金）

場所：湯河原商工会館3F

楽しかったティータイム

皆さんは、中国で一番飲まれているお茶は何か知っていますか？

紅茶？烏龍茶？実は意外にも緑茶なのだそうです。

そんな話から始まったお茶会は、始終和やかなムードで進みました。

紅茶と緑茶と烏龍茶は同じ葉で出来ています。地方や種類こそ違えど、元を辿れば同じ葉なんです。そして紅茶や烏龍茶は、実は緑茶を作る過程での失敗から生まれたんだとか。

そんな話のあと、摘んだ時期の違う紅茶の飲



み比べをしました。

葉の大きさや色がそれぞれ違い、飲み比べても同じ葉とは思えない位差が出ていました。

次に、実際おいしい紅茶を入れるにはどうしたらいいのかを教えてくださいました。

今回は2種類の入れ方をならったのですが、簡単に説明します。

まずは、茶葉の量をきちんとはかること。多いと渋く、少ないと風味がなくなります。

それから、ポットを一度温めること。

そして最後に、茶葉に合った時間蒸らすこと。

これでおいしい紅茶の出来上がり。たまには茶葉で本格的な紅茶も良いものですよ。

試してみてください。（岩倉朋代）

国内外親善交流フェア

湯河原町主催の「国内外親善交流フェア」に参加し、ブラジルコーヒー、タイカレー、ダージリンティー等の販売を行なった。

日時：平成17年11月6日（日）

場所：桜木公園及び桜木公園通り



Xmasパーティー

恒例のクリスマスパーティー開催され、ピング大会やチャリティーオークションなどで楽しいクリスマスを過ごした。

参加者は大人44名、子供15名の合計59名だった。

日時：平成17年12月22日

場所：湯河原童夢

オークション売上：65,720円



平成の還暦に思う



日本の惨めな敗戦から、既に六十年の還暦を迎えた。まさに感無量だ。

湯河原国際交流協会が二十年を越すが、平成十七年に迎えたホーム・ステイの外国人の数は十四人で、ブラジルから五名、韓国から三名、中国から一名、香港から一名、台湾から一名、ドイツから一名、タイ国から一名、サモアから一名、となっている。

面白い現象として、英語圏からは一名の参加もない。日本人の認識では、外国人とは、英語圏を主に考えてしまう。しかし現実には、毎年東洋系の人が多く、この人たちは必ずしも英語が通用するとは思えない。しかしホーム・ステイを受け入れる善意の人々は、別に英語圏の人たちに拘る事無く、手まね言葉で、何となく通じ、サービスをして、一週間の滞在で、お別れのときは涙を流しながら、感謝の言葉を残し、別れを惜しんで帰国して行く。短期間の間に日本人の真心を理解し、やがて帰国して日本人の優しさを宣伝してくれて、やがてそれぞれのお国に親善の輪が広がって行くことになるのではないか。

話題が変わるが、現在の日本人の間では、カタカナ英語が氾濫している。特に役所の文章に、実に驚くほどカタカナ英語が使われている。例えばコラボレーション、コンテンツ、コンセプト等、恰好いいとでも考えているのか、どうか知らないが、実に多くのカタカナ英語の表現が多いのだ。



近代史評論家の半藤一利さん（元文芸春秋編集長）がテレビで面白い話をしていた。

日本が戦争をしたことのない国、アメリカ、カナダ、ドイツ、エジプト、オーストラリアの五カ国を女子大学生五十人に問うてみたところ、アメリカと答えたのが、十人いたと言う。日本が六十年前にアメリカと太平洋戦争に負けて、敗戦を迎えた歴史を知らないのである。戦後の歴史教育はどうなっているのか。

日本は世界第二の経済大国と言われているが、外交面では弱い国柄で、歴史認識が足りない等と言われ、それぞれの国には独特の歴史、宗教があることを強く言えない。

日本独自の主体性を失うことは、将来を考えると、恐ろしいことになる。還暦を迎えた今日、多くの若者が、フリーターとして一定の職業につかず、アルバイトで結構贅沢な生活を楽しんでいる姿を見ると、将来の日本人は大丈夫かと心配になる。

反面大きな被害にあった国、教育面が遅れているために、簡単に立ち揚がれないアフリカの国々に日本は援助を惜しまない、ODAと言う応援のための資金を出し尊敬もされている。

何処の国でも問題を抱えている。比較すれば、日本は恵まれている国だと思いたい。還暦を無事平和で迎え、むしろ東洋圏の国々は経済的に今後の希望が生まれつつある今日、明日への明るい期待を以って、より明るい日本の発展を望みたいものだ。湯河原国際交流協会の貢献度は大きく、更なる発展を望みたい。（石井立夫）

石井さんのホームページです。

どうぞご覧下さい。

<http://www.geocities.jp/tatsuo1920/>